

3 古津八幡山遺跡

3_2_遺構の重複関係と遺物の型式学的研究

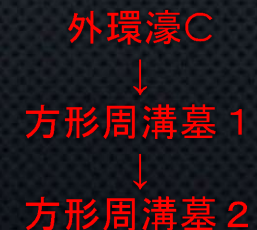
※後期北陸系土器と天王山式系列土器が遺構内で共伴する

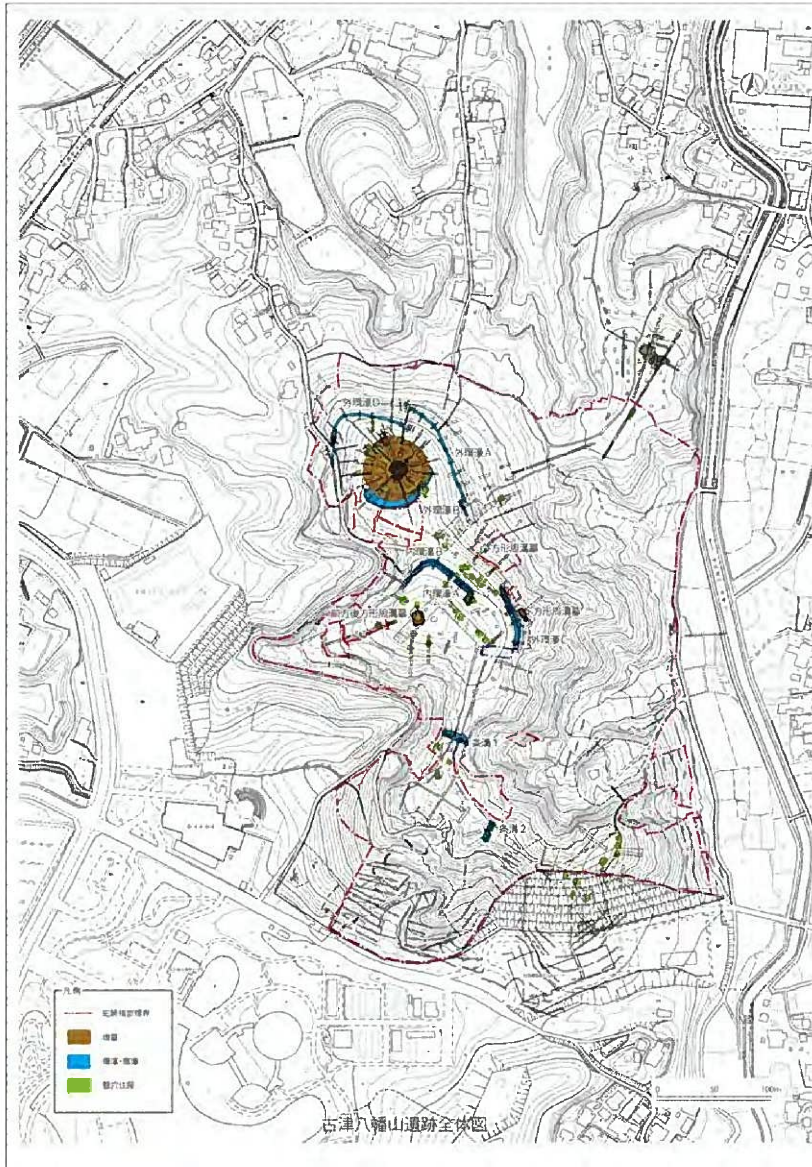
共伴しない場合も、遺構の重複関係（新旧関係）で遺物の新旧が確認できる

- ①外環濠C中層 後期前の後半段階 北陸系（猫橋式新段階） 環濠の掘削時期は更に遡る？
- ②方形周溝墓1（SX1005） 後期前半の後半段階 東北系（天王山式系列土器）
- ③方形周溝墓2（SX1004） 後期後半の前半段階 北陸系・折衷系（法仏式・八幡山式）

方形周溝墓1と溝を共有し、その後に構築

方形周溝墓の周溝覆土に外環濠C掘削土（土塁？）が堆積しており、環濠よりも新しいことが明確





■遺構の新旧関係と土器型式

- 外環濠C 猫橋式新段階
- 方形周溝墓1 天王山式系列
- 方形周溝墓2 法仏式古段階

方形周溝墓2
 土器?
 方形周溝墓1
 外環濠C

全長21.8cm

方形周溝墓1主体部出土
 鹿角装鉄剣とアメリカ式石鏃

方形周溝墓1出土土器 東北系(天王山式系) 1/6

弥生土器はおもに環濠の中層に堆積

外環濠C出土土器 北陸系(猫橋式新段階) 1/6

環

墓制・鉄剣 西日本の土器・石鏃 東北的
 ⇨交差現象
 遺構の重複関係からこれらの天王山式系列土器群が猫橋式と法仏式の移行期に位置づけられることがわかる。

外環濠C 1/80
 国史跡 古津八幡山遺跡 外環濠と方形周溝墓



古津八幡山遺跡

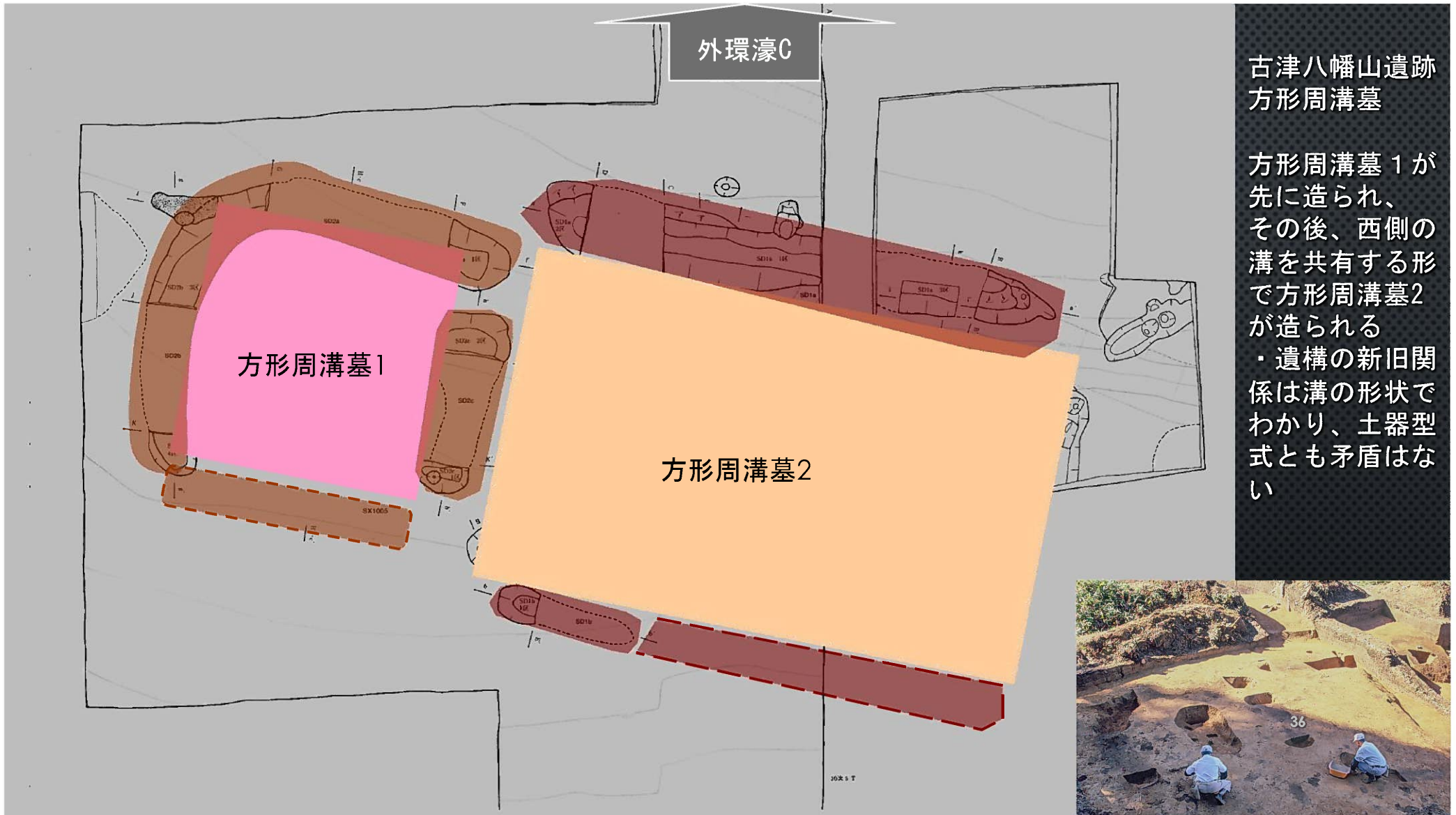
外環濠C出土 北陸系土器（後期前半 猫橋式）

後期後半の法仏式の甕に比べると、口縁部の伸びが少ない

古津八幡山遺跡では、まず最初（後期前半）に
北陸系集団によって
外環濠が掘られ、
高地性集落が築かれた

日本海沿岸にある穴地山遺跡に後続する頃



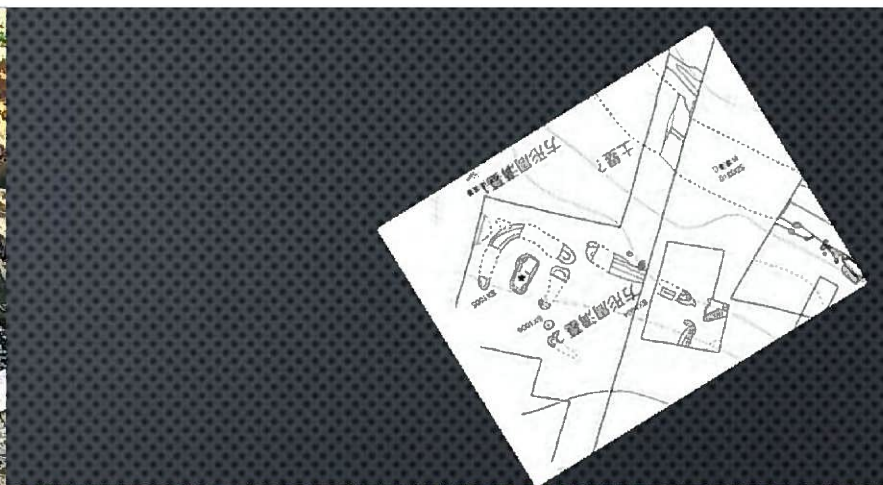


古津八幡山遺跡 方形周溝墓

方形周溝墓1が先に造られ、その後、西側の溝を共有する形で方形周溝墓2が造られる

- ・遺構の新旧関係は溝の形状でわかり、土器型式とも矛盾はない





方形周溝墓1・方形周溝墓2

方形周溝墓2

方形周溝墓1

古津八幡山遺跡



方形周溝墓 1
2.8×3.1m

方形周溝墓の交差現象

墓制 組合せ式木棺 武器（鉄剣）の副葬 西日本的
天王山式系列土器 アメリカ式石鏃 東日本的

※古津八幡山遺跡の複雑な社会状況を示す典型的な遺構

古津八幡山遺跡



アメリカ式石鏃



鹿角装鉄剣





出現期の八幡山式



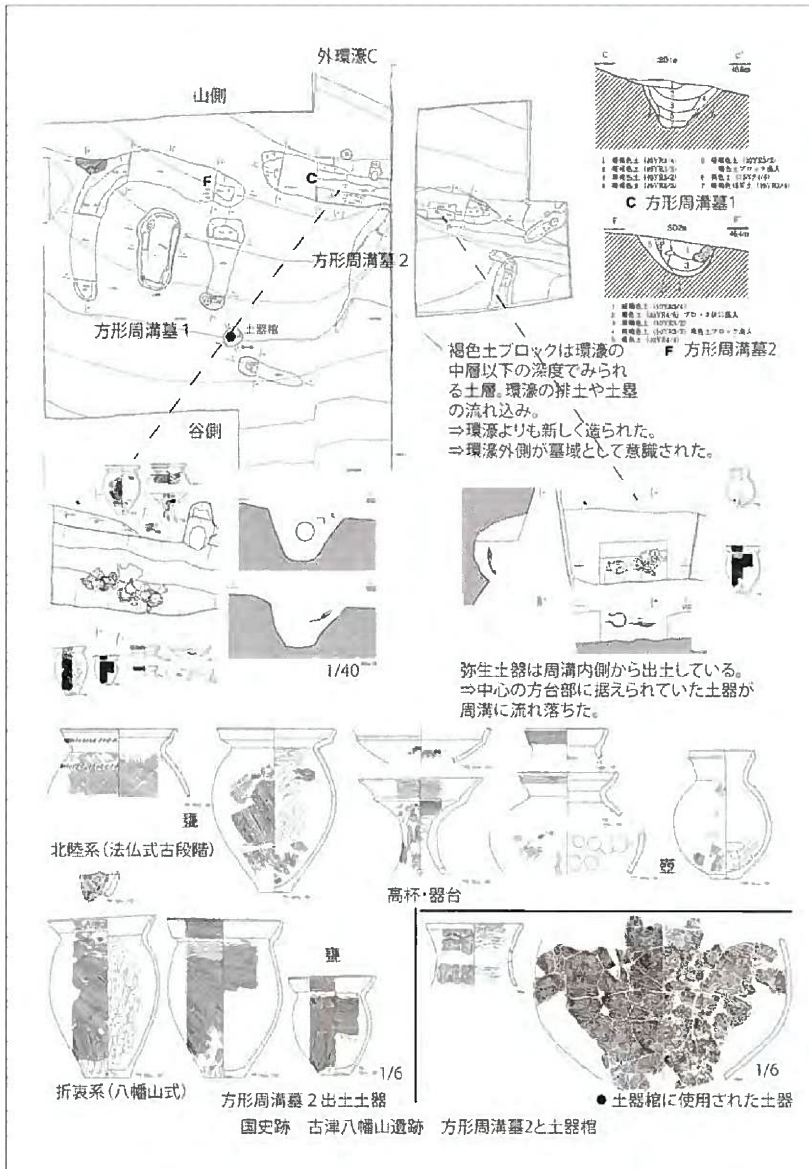
結節縄文が転化した鋸歯文



古津八幡山遺跡 方形周溝墓1出土 東北系土器（後期前半の後半段階）



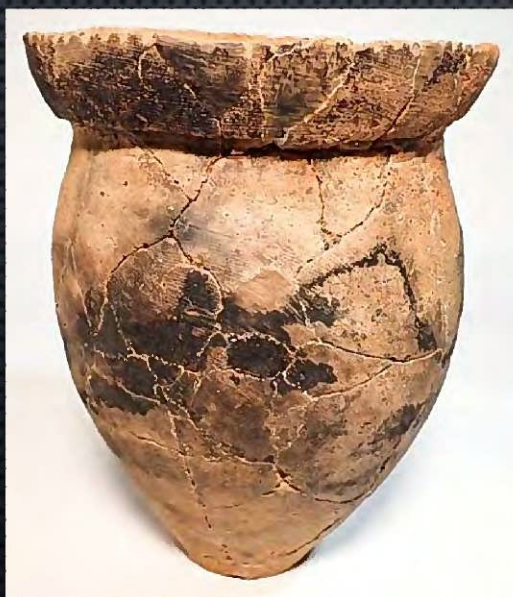
古津八幡山遺跡 方形周溝墓1出土 鹿角装鉄剣・石鏃



方形周溝墓1 方形周溝墓2
周溝に堆積した環濠の掘削土



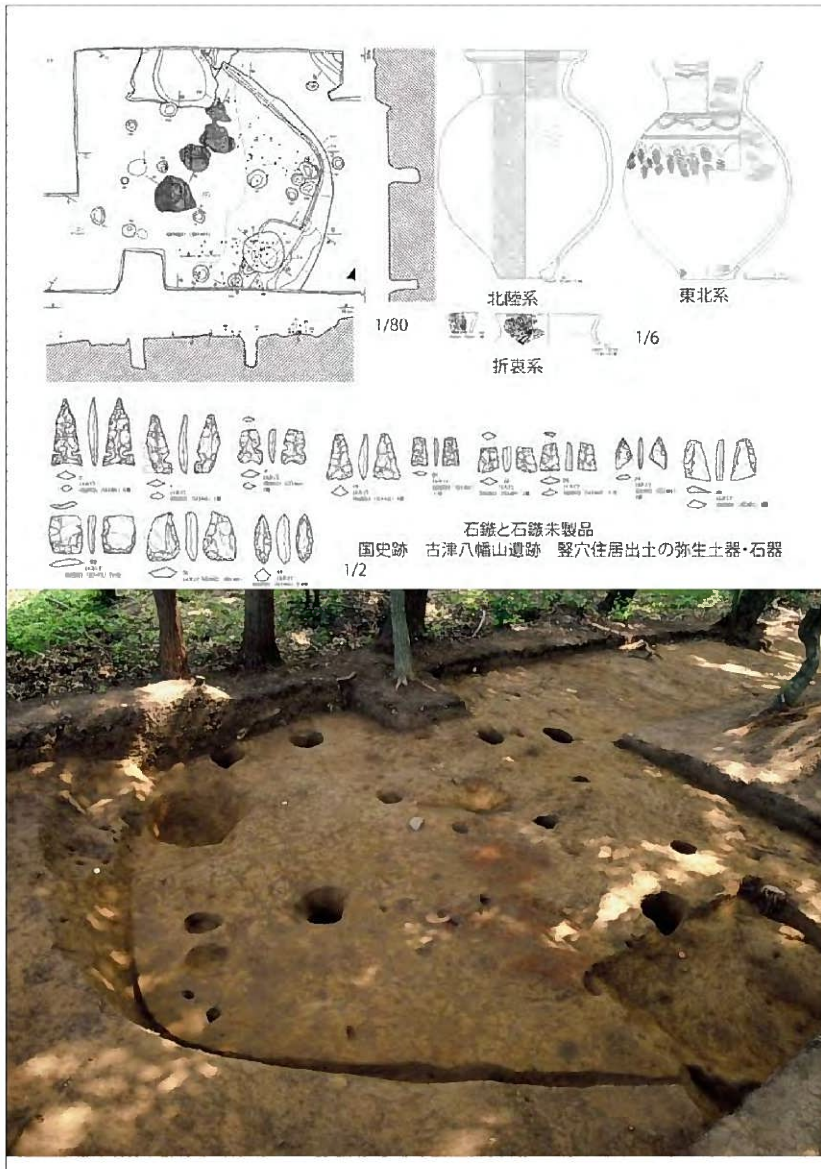
古津八幡山遺跡 方形周溝墓2 弥生土器出土状況



後期後半（法仏式古段階）
甕の口縁部が伸長している

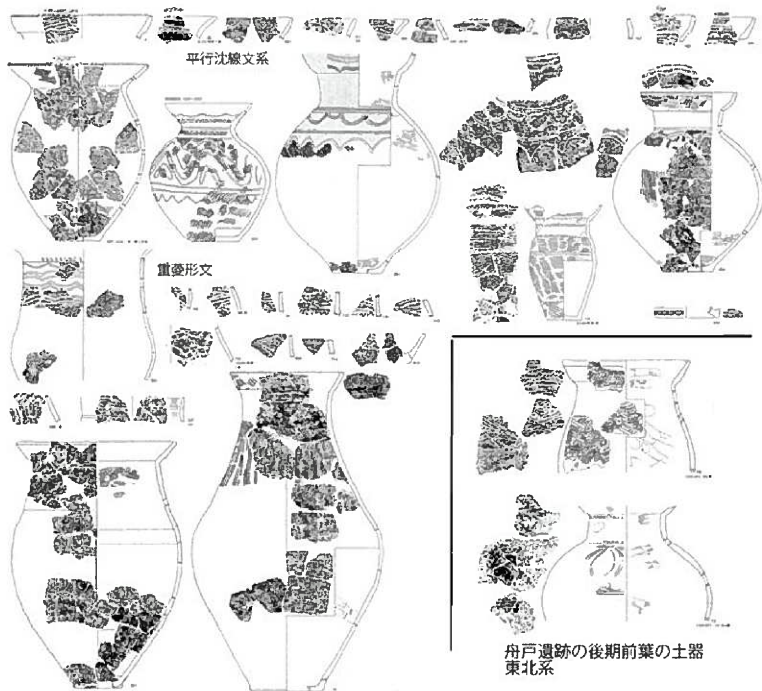
八幡山式土器

古津八幡山遺跡 方形周溝墓2出土 北陸系・折衷系土器（後期後半の前半段階）



口縁部 2条沈線で下向連弧文
 頸部上半 無文
 頸部下半 2条沈線で上向連弧文
 上胴部 下向連弧文

古津八幡山遺跡
 竪穴住居で伴出する北陸系・東北系土器



国史跡 古津八幡山遺跡の後期前葉の土器 東北系



古津八幡山遺跡以外の出土例は稀。器面はハケメ・ナデ調整。薄手・厚手、平口縁・波状口縁がある。器種は広口長頸壺が主体。特徴が少なく型式変遷がわかりにくい。後期中頃には出現している。

国史跡 古津八幡山遺跡 折衷系(八幡山式)



古津八幡山遺跡の後期前半の土器

古津八幡山遺跡では中期後半 終末の資料は1点も出土していない
天王山式系列土器が中期に併行することは考えられない

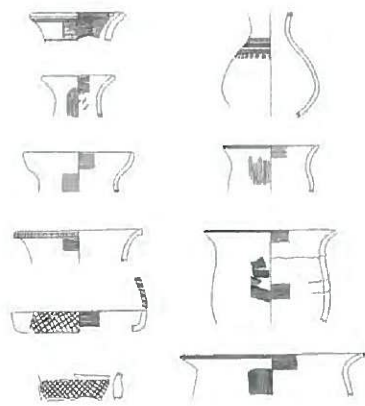


舟戸遺跡の後期前葉の土器
東北系

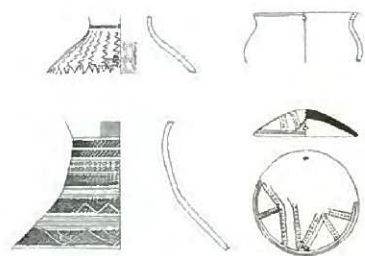
古津八幡山遺跡の
麓にある遺跡

舟戸遺跡の後期前半
の土器

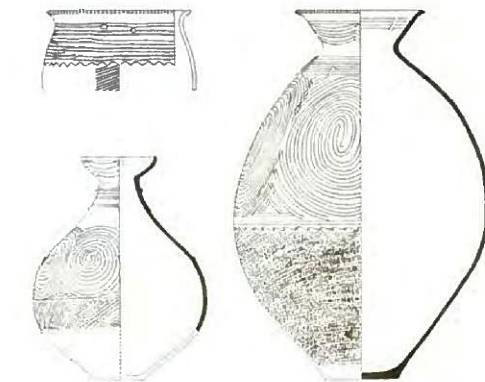
4 弥生時代中期後半から後期初頭の土器について



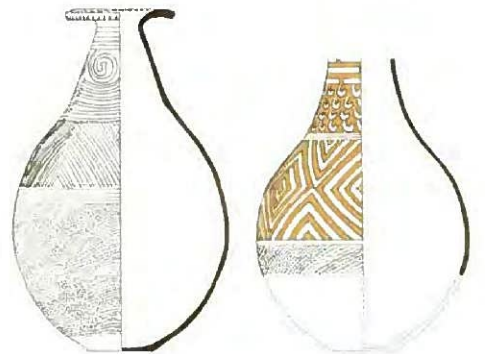
北陸系（小松式）



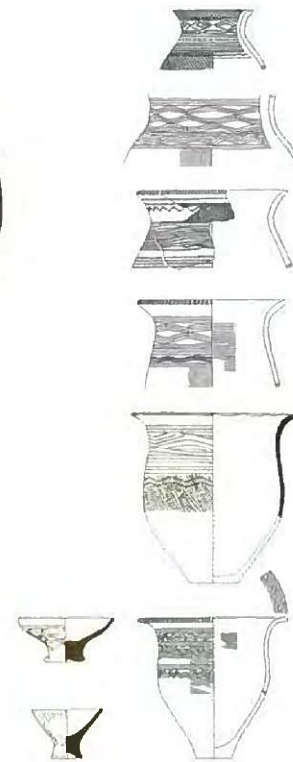
長野系（栗林式）



会津系（川原町口式）



秋田系との折衷
（宇津ノ台式との折衷）



●中期後半の東北系土器

●会津系（川原町口式）
平行沈線（2本描沈線）で
渦文・重山形文・重菱形文などの
文様を描く

●秋田系（宇津ノ台式）及び
折衷型式
へら描沈線又は
平行沈線（3本描沈線）で
直線文・波状文・菱形文などの
文様を描く

新潟県 阿賀北
新発田市山草荷遺跡出土の各系
統の土器群（中期後半）



長野系（栗林式）



北陸系（小松式）



秋田系（宇津ノ台式）



東北南部系（川原町口式）

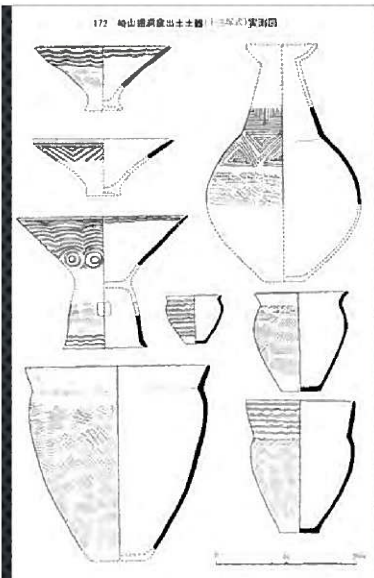
新潟県 阿賀北
新発田市山草荷遺跡の弥生時代中期後半の土器



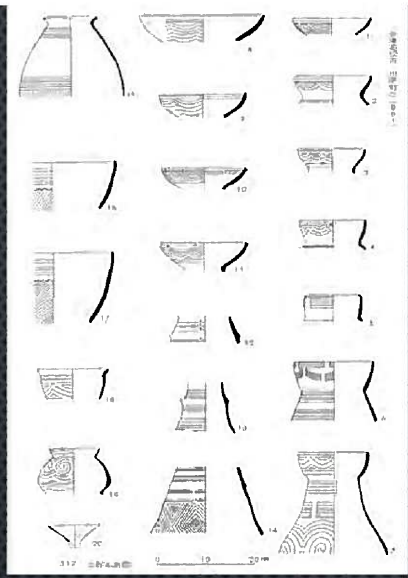
秋田系（宇津ノ台式）土器群と
折衷土器 3本描施文具



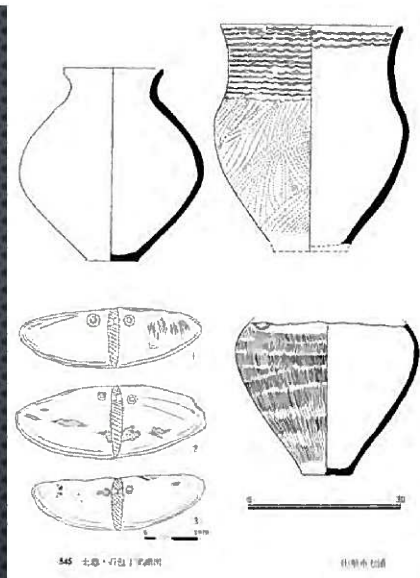
新潟県 阿賀北
新発田市山草荷遺跡の秋田系土器



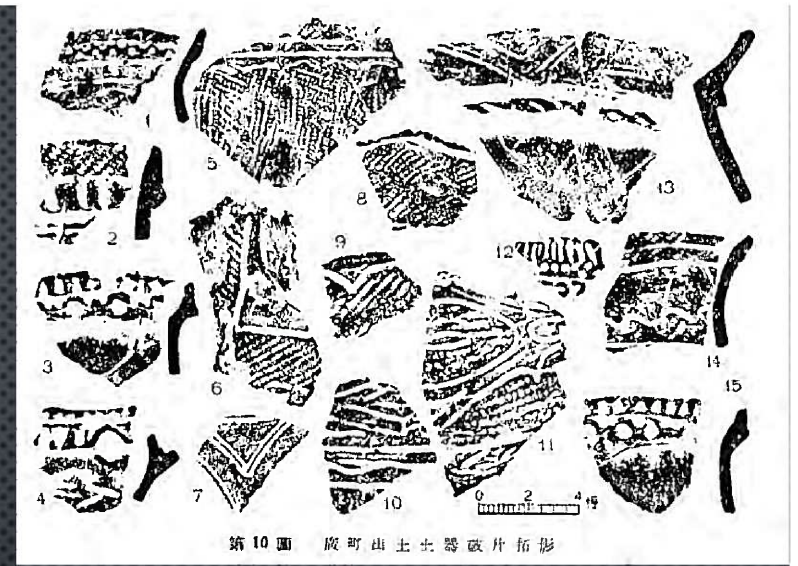
宮城県



福島県



山形県



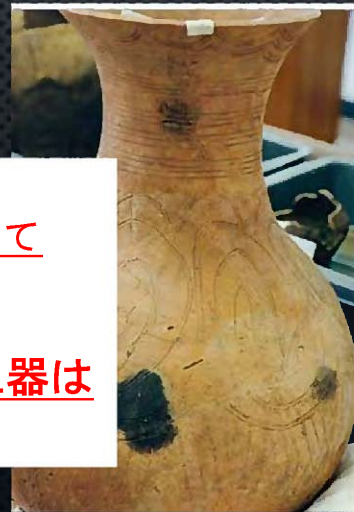
第10圖 廣町出土土器破片拓影

岩手県奥州市

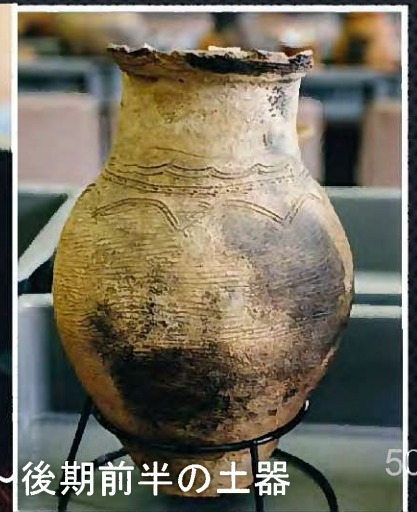
東北地方における弥生時代中期後半の
平行沈線文系土器

中期後半
岩手県南部～東関東、山形・新潟の一部にかけて
平行沈線文系土器が分布する

⇒平行沈線文系土器の要素を残す後期の土器は
古い（後期初頭）様相と考えられる



茨城県における
弥生時代中期後半～後期前半の土器



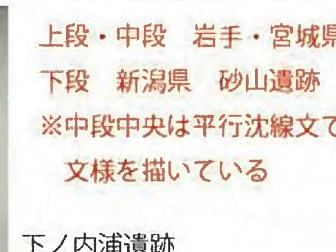
後期初頭から前半の出現期の「交互」刺突文



兎Ⅱ遺跡



下ノ内浦遺跡



上段・中段 岩手・宮城県
下段 新潟県 砂山遺跡
※中段中央は平行沈線文で
文様を描いている

下ノ内浦遺跡



能登遺跡例は岩手県・宮城県の例に類似する。厳密に言うと、「交互」刺突文にはなっていない。砂山遺跡
横位の沈線を引いて、縦に棒状の工具でキザミを入れている。(仮称 兎Ⅱタイプ交互刺突文)
砂山遺跡例のような三角形の刺突は太平洋側では稀。下段最右以外は、「交互」刺突文にはなっていない例。



交互刺突文

天王山遺跡

岩手県南部地域における中期末・後期初頭の弥生土器 1



上段・中段：天王山式系土器（※中段右から2番めは交互刺突文と平行沈線による連弧文が併用される例）
下段：平行沈線文系土器（中期後半の要素を残す一群）

・ 兎Ⅱタイプの「交互」刺突文
口縁肥厚部に横位の沈線を引き、縦のスリットを入れる
⇒ 兎Ⅱ遺跡ではその上に縦のキザミを入れるのが特徴

・ 縄文原体はLR

・ 平行沈線で山形文や連弧文を描く
平行沈線文系土器が出土

・ 平行沈線で文様を描き、交互刺突文を入れるものもある

Cf 細田遺跡

岩手県奥州市兎Ⅱ遺跡の天王山式土器と平行沈線文系土器

岩手県南部地域における中期末・後期初頭の弥生土器 2



- ・ 兎Ⅱタイプの「交互」刺突文
口縁肥厚部に横位の沈線を引き、縦のスリットを入れ、さらにその上に縦入れる

- ・ 縄文原体はLRが主

- ・ 平行沈線で山形文や連弧文を描く
平行沈線文系土器が出土

- ・ 結節縄文が多用される

上段：天王山式系土器（左から1番め・2番めは兎Ⅱタイプ交互刺突文を入れる例。3番めは平行沈線で連弧文を入れる）

中段：平行沈線文系土器（左から1番目の太い原体のLR縄文は天王山式系の影響によるもの）

下段：結節縄文LRを入れた粗製土器。口縁有段肥厚部が押圧により下向き連弧状となる

岩手県奥州市石田Ⅰ・Ⅱ遺跡の天王山式土器と平行沈線文系土器

岩手県南部地域における中期末・後期初頭の弥生土器 3



岩手県南部（北上市・奥州市周辺）周辺では、中期後半に多用される平行沈線文系の施文具で文様を描く天王山式系土器が見られる。これらの天王山式系土器に描かれる交互刺突文は兎Ⅱタイプの交互刺突文が大半であり、兎Ⅱタイプの交互刺突文が中期後半に接点を持っていることを示している。⇒兎Ⅱタイプの交互刺突文に類似する能登遺跡なども同様。

・ 兎Ⅱタイプの「交互」刺突文
口縁肥厚部に横位の沈線を引き、縦のスリットを入れ、さらにその上に縦のキザミを入れる

・ 縄文原体はLRが主

・ 平行沈線で山形文や連弧文を描く
平行沈線文系土器が出土

・ 結節縄文が波状沈線に転化したものもある

上段：左端 天王山式系土器（兎Ⅱタイプ交互刺突文を入れる例） 他 内湾口縁に平行沈線で連弧文を入れる折衷土器

中段：平行沈線文系土器（上段右3例と同一個体の可能性が高い。LR地文に波状文や連弧文を入れる。）

下段：平行沈線文系土器（RL地文に同心円文・渦文や山形文を入れる例）

岩手県奥州市北田Ⅱ遺跡の天王山式土器と平行沈線文系土器

会津地域における中期末・後期初頭の弥生土器 1



2本描上向連弧文が主、4本描
仮称Ⅱタイプ交互刺突文
横位沈線+縦スリット
広口壺 甕 蓋 高杯

福島県会津美里町油田遺跡

- ・ 中期末からの伝統である平行沈線-2本描施文具で-主に上向き連弧文を描く
- ・ 口縁部や口縁部下端には、横位沈線+縦スリットの「交互」刺突文を入れている（仮称Ⅱタイプ）
- ・ 縄文原体は、中期後半にはない1段Lがあり、1段Rと拮抗する

・ 燃糸文・無節縄文が多いのも特徴
⇒ 会津盆地の前時期からの系譜だけでは辿ることができない土器群
※ 中期後半の渦文・同心円文ではない

会津地域における後期初頭の弥生土器 2



・天王山式土器には稀な、頸部で括れ口縁部が肥厚しない甕形の器形

・平行沈線-2本描施文具-で連弧文
・平行沈線-2本描施文具-で鋸歯文
・「交互」刺突文は兎Ⅱタイプが多い

・能登遺跡には、先端が二又になった施文具で連弧文を描くものが一定量見られ、平行沈線の名残かと思われる

・結節縄文を波状沈線に転化したものもある

会津では中期末の2本描施文具（平行沈線文）は、渦文・同心円文が主体なので、中期末の系譜だけでは捉えきれないが、古い様相を持った土器群であると言える

⇒これらの一群と出土した土器を天王山遺跡天王山式よりも古いものと位置づけている